

⑥ 第6委員会

「安全で安心してくらせるまちづくり」



それでは、第6委員会の意見を発表します。

第6委員会のテーマは、「安全で安心して暮らせるまちまちづくり」です。

このテーマについて考えるため、わたしたちは7月20日に防災指令センターに行きました。そこで、わたしたちは心臓マッサージのやり方やAEDの使い方を体験しました。そして、防災指令センターの仕組みなど、市民や職員の一秒でも早い対応の仕方におどろきを感じました。また、たくさんの工夫やシステムがしてあるセンターのおかげで名古屋が守られていることに安心感が持てました。多くの人が対応を知り、交通マナーなどをしっかり守り、もともと火災や交通事故が起こらないようにしていきたいです。

その後、わたしたちは、施設見学をして感じたことや考えたことをもとに、名古屋を安全で安心して暮らせるまちにするためには何をすればいいのか考えました。

それでは、わたしたちが考えたことを順番に発表します。

○子ども議員 まずは、交通安全について発表します。

みなさんが知っているとおり、愛知県は交通事故死者数が全国でナンバーワンです。このことについて、みなさんはどう感じましたか。わたしは、安全で安心して暮らせるまちづくりにするには、まずここを直していかないといけないと思いました。そのためにわたしが考えたことは二つあります。

一つは、学校にポスターを張り、学校 みんなに交通安全について心がけてもらうことです。そうすれば、子どもの飛び出しの交通事故が減るかもしれません。

二つ目は、カーブミラーをもっとたくさん取りつけることです。カーブでの事故が多い交通事故は、やっぱり今よりもっとたくさん取りつけることが必要だと思いました。

このようなことを中心に行動すれば、名古屋がもっと安全で安心して暮らせるまちに近づけると 생각합니다。

○子ども議員 わたしの考えは、二つあります。

まず、愛知県は、交通事故率ワーストワンなので、曲がり角に歩行者の安全のためにもカーブミラーをもっと置くことで、出会い頭の事故を減らします。

次に、高れい者社会への対応です。よく青になったときに音が鳴る信号がありますが、駅の方にしかなく、音もよく聞こえません。目がよく見えない人は、標識のマークなども見えにくいので、高れい者の方に聞こえにくいのか、見えにくくないか。ならば、どこを変えてほしかという取材をして、どうやって変えるかを決めたりします。わたしは、道路標識を改善しないと、高れい者の方々も不安だと思います。こういう対策をしない限り、安全で安心なまちづくりはできません。だからこそ、人口が多い名古屋市の問題は、特に解決しなければいけないと思います。

○子ども議員 愛知県は、交通事故数ワーストワンなので、曲がり角に車観測機かんそくきをつけたらいいと思います。なぜかという、曲がり角で車と歩行者がしょうとつする事故じこが多いからです。もし、車観測機かんそくきが取りつけられ、「車が近づいています」と言えば、歩行者は車に注意することができ、事故じこを防ぐことができると思います。また、耳の不自由な人のためには、スクリーンに文字ひょうじが表示されるとよくわかります。

車観測機かんそくきを取りつけることで、交通事故数ワーストワンではなく、交通事故じこが少ない県ナンバーワンを目指し、みんなが安全で安心して暮らせるまちづくりにしたいです。

○子ども議員 わたしは、通勤通学時つうきんに急いでいても一人一人がマナーを守ることが大切だと思います。なぜなら、見学のとき、事故じこが多いのは通勤と通学つうきんのときだと聞いたからです。急いでいるからといって、自分のことばかりを優先ゆうせんしたり、周りが見えなくなることが、事故じこにつながってしまうと思います。たくさんの人に事故じこを起こさないという意識いしきを持ってもらうには、警察けいさつの方と協力して声かけをしてみたり、自転車であれば、自転車と人がぶつかったりしないように、自転車が走れるところにわかりやすく色をつけたりして、意識いしきを引き出せるといいと思います。

このようにしていけば、名古屋が安全で安心して暮らせるまちになると思います。

○子ども議員 わたしは、大好きな名古屋を安全で安心して暮らせるまちにするためには、地域でもっと交流するようにすればいいと思います。

今回、提案したい案は、地域の防犯意識を高めるようなイベントを行うことです。警察の方々に手伝ってもらい、自動車・自転車教室を行うのはどうでしょうか。自動車教室は、当然ですが、大人の方々に来てもらい、飲酒運転はしないなどのことを呼びかけるのです。しかし、最近ではめん許を取っていない若い人たちが無めん許で車を運転してしまうということも聞きます。めん許を取っていない若い人たちにも呼びかけることをするのもよいかと思いました。

次に、自転車教室ですが、大人の方々が集まる大人の部、小学生が集まる子どもの部に分け行うのがよいと思います。大人の部はDVDを見て学ぶ、子どもの部は実際に自転車に乗り体験するという形で行います。親子の部があってもいいかもしれません。自転車教室の大人の部は余りないので、この教室が実現して、はば広い世代の人に安全な乗り方を知ってもらえれば、交通事故は減り、笑顔がふえる。そんないいまちに名古屋はなっていくと思います。

これで交通事故についての発表は終わりです。

○子ども議員 次は、安全なまちについて発表します。

わたしは、ここへ来て、名古屋がちょっとずつ安全で安心して暮らせるまちに近づいているような気がしました。施設の人や地域の人など、よいまちになるために、いろいろな人ががんばっています。でも、まだこの名古屋市では、暗い道が多かったり、高れい者や障害者など、まだ安全に暮らせてない人たちがたくさんいます。

いつもわたしが遊んでいるグラウンドは、野球やサッカーなどができません。そのため、道路でやっている人たちも見かけます。もっと安全に遊べるように、野球のできるグラウンドやいろいろな遊びができるところがあると安全だと思います。

わたしは、事故や救急など起こったとき、いろいろな人たちに助けてもらっています。だからこそ、自分一人一人が気をつけて安全で暮らせるまちに近づけるようにがんばりたいです。

○子ども議員 ぼくは、防災指令センターに行って、いろいろと感じました。千葉での地震で大きなひ害を受けて、今思っていることは、たいしん工事などを進めたり、道路補強に取り組み、ひ害をより少なくおさえたいです。

また、市民みんなで協力し合って助け合い、「安全で安心して暮らせるまちづくり」をしたいなと思いました。津波は危険ですが、てい防を高くして補強することで防ぐことができます。みんなで協力し合って助け合えば、安心できると思います。てい防をこえる津波が来ても、冷静に考えて高台にひなんしたりすれば、てい防の高さ分だけ津波のい力をおさえることができると思うし、また、地震が来ても、あわてず、直ちにひなんすれば、自分の身を守ることができると思いました。

○子ども議員 ぼくは、名古屋市を安全で安心して暮らせるまちにするためには、何か起こったときに、何をすればよいか、一人一人がちゃんと知っておくことが大切だと思います。理由は、行政がどれだけ努力をしても、市民が、行政がやってくれるからと全く努力をしないで安心していたら、市民が協力して救えたはずの命が救えない場合があるからです。

例えば、たおれている人を見つけたら、反応や呼吸の確認をして119番に通報します。このようなことが起きたときの最善策を一人一人が知っておくことが大切だと思います。

そして、事故などの死者を出さないように、自分がひ害者や加害者にならないように、一人一人が気をつけるべきだと思います。

○子ども議員 ぼくたち第6委員会は、防災指令センターの見学をしました。そこでは、消防士の仕事や心臓マッサージのやり方、そして、ここで働く人の素早い対応などを見学し、体験しました。

名古屋市をより安全で安心して暮らせるまちにするためにぼくが考えたことは、水難事故を減らすということです。最近、川や海で遊んでいた子どもが、ゲリラ豪雨による増水などによってぎせいになっています。このようなことを考えると、服を着たままでも泳げる力を身につけることが必要だと思いました。小さいころからスイミングを習っていない子でも、着衣水泳をして、だれもが自然のこわさを体感すべきだとぼくは考えました。だから、6さいになったら市が着衣水泳の案内を出すなどして、全員が着衣水泳を体験すべきだと思いました。

○子ども議員 わたしたちは、笑顔にあふれるまちについて考えました。

わたしは、名古屋市中区の錦のごぼん割の中に住んでいます。昔は人も多くてにぎやかだったそうですが、今は住んでいる人は少ないです。その上、ここははんか街、ビジネス街ですから、夜は特にわたし一人で歩くことは不安です。そして、朝でもいろんな人がいます。そのために、わたしはもっと大人も子どもも安心して住めるようなまちにしたいですし、もっと地域とのつながりを持っていけるようにしたいです。

また、わたしの家の周りは、コインパークばかりで、空きビルが多いですし、スーパーマーケットなどはありません。そのため、そういった空きビルなどをスーパーマーケットやパン屋さんなどのお店にして、もっと住民をふやしていけるまちにしたいです。

○子ども議員 わたしが住んでいるところでは、近所の人がとても仲よしです。楽しくお話をしたり、犬の散歩を手伝ったりしています。そのときは、みんながいつも笑顔です。それは、みんなが楽しくふれ合っているからだと考えました。わたしは、みんなが楽しくふれ合っていて仲がよかったら、何かあったときでも助け合えると思います。そのことが「安全で安心して暮らせるまちづくり」につながると思います。

そして、そのことがどこでもでき、安全で安心して暮らせるまちにするために、わたしは、年れいや性別、さらに国に関係なく、ふれ合える場所「ガヤガヤパーク」—ガヤガヤは、楽しそうなふんいきと名古屋弁をかけてみました—を考え、大好きな名古屋をもっともっと笑顔があふれるまちにしたいです。

○子ども議員 「安全で安心して暮らせるまちづくり」には、大きく二つのことが必要だと思います。

一つ目は、安全でどんな人も住みやすいまちの仕組みです。安全面では、道や横断歩道を広くしたり、信号をもっとふやすとよいと思います。住みやすいまちにするには、高れい者のためのスロープや障害者もふつうの人と同じように生活ができるための点字ブロックなどをつくとよいと思います。

二つ目は、みんなの心を明るく、笑顔があふれるようにすることです。そのためには、あいさつがいいと思います。あいさつは、たった一言なのに、言われると、さわやかでうれしい気持ちになります。だから、ぼくは、学校で縦割り班のあいさつ当番を決めて、毎朝だれかが校門に立ってあいさつをしてくれるような、あいさつ運動をするべきだと思います。

これで、笑顔があふれるまちについての発表を終わります。

わたしたち第6委員会は、これらのことが名古屋を安全で安心して暮らせるまちにするために必要だと考えました。

これで、第6委員会の発表を終わります。

■^{は せ が わ}長谷川都市消防委員長の答弁

第6委員会の12名の委員のみなさん、すばらしい^{ていげん}提言、ありがとうございました。

大好きな名古屋を安全で安心なまちにしていくためにはどうしたらいいのかと、本当にしんけん^{し せつ}なまなざしで施設見学をし、質問もいっぱいして、みんなで感じたこと、そして考えたことを議論^{ぎろん}して、ただいまの希望あふれる^{ていげん}提言をいただきました。

交通安全については、たくさんの要望や^{ていあん}提案がありました。交通事故数^{じ こ}の一番少ない名古屋にしていく。そのために、カーブミラーの設置^{せ ち}、ポスターでのけい発、マナーを守るという一人一人の心がけ、そして自転車教室^{じゅうじつ}の充実、事故^{じ こ}のひ害にあいやすい高れい者へのはいりょ、そして車観測機^{かんそくき}というアイデア、どれもすごいすばらしいことです。大切なことであります。

また、安全なまちについては、だれもが安心して遊べるグラウンドの整備^{せい び}、その必要性^{ひつようせい}。昨年^{だ い しん さい}の大震災の3・11を千葉で体験し、その結果、たいしん工事、^{ぼう}てい防の^{ほきよう}補強などの^{じゅうようせい}重要性を^{ていあん}提案してくださった。そして、一人一人がひ害者、加害者にならないように気をつけること。そんな^{ようぼう}要望もございました。さらには、水難事故^{すいなん}をなくすために着衣水泳のさらなる^{すいしん}推進、安心して子どもも高れい者も歩けるまちづくり、たくさんの^{ていあん}要望、提案がございました。全部、安心・安全のまちづくりのためには必要なことでありますし、大切なことであります。



でも、みなさんは、それだけでは安全と安心のまちづくりはできないということにも気がつきました。^{ちいき}地域で身近に暮らしている人たちが、あいさつを交わす、言葉を交わす、ふれ合うことによって、人の輪ができ、大きな力が生まれるということを気がついたのです。

^{じこ}事故や火事、そして台風や^{じしん}地震などの^{さいがい}災害が発生し、いざというときに、人と人とのつながりの輪は、とても強いまちをつくりまします。安全で安心なまちづくりをします。

子ども委員のみなさん、みなさんの一人一人の発想も思いもすごい力です。でも、ここにいる全員との思いがつながれば、一人の何十倍、何百倍もの力となって、^{じこ}交通事故も、そしてさまざまな^{はんざい}犯罪も減ると思います。

みなさんからきょういただきましたさまざまな^{ていあん}提案は、しっかりとつなげていくことをここでお約束いたしまして、わたしの^{とうべん}答弁とさせていただきます。

これから行われますすばらしい未来に向けての^{せんげん}宣言、楽しみにいたしております。ありがとうございました。

